◎5月8日に同志の柚木洋佐さん（徳之島天城町）の自宅で火災が発生し一階部分を消失されたとの報告を受け、同志会まごころ募金から御見舞金をお届けしました。
◎4月24日、川副嘉久先生に東日本大震災復興支援活動の援助金を同志会まごころ募金から拠出させていただきました。

## 「鹿児島県民球団」を目指して・・・

# レノヴァ鹿児島

RENOVA KAGOSHIMA PROFILE

**目指すチーム像**

チーム全員がプロ選手としてのプライドを持ち、さらなる高みを目指す。NBL（新リーグ）に向けて、日本トップクラスのチームになるよう「勝つ！！」バスケットボールを心がけ、桜島の溶岩のような、相手を飲み込むディフェンスや、大爆発を思わせるダイナミックでスピーディーな攻撃！そして、サポーターを何よりも大切に考え、鹿児島の人々に愛されるチーム。一人一人が意識を高く持ち、選手・スタッフ間でのコミュニケーションを重視し「家族」のようなチーム作りを目指す。

| | |
|---|---|
| 2008年 | 鹿児島レッドシャークスを母体に【レノヴァ鹿児島】が誕生～JBL2に参戦 |
| 2008-09シーズン戦績 | 3勝11敗（8チーム中7位） |
| 2009-10シーズン戦績 | 6勝15敗（8チーム中6位） |
| 2010-11シーズン戦績 | 11勝12敗（9チーム中4位・震災影響によりリーグ戦およびプレーオフ中止） |
| 2011-12シーズン戦績 | 18勝9敗（10チーム中4位・初のオールジャパン、プレーオフ進出） |
| 2012-13シーズン戦績 | 26勝6敗（12チーム中2位・初のプレーオフ・ファイナル進出） |

**2013-14シーズンより、JBL2に代わって発足されるナショナル・バスケットボール・リーグ（NBL）の下部リーグ・ナショナル・バスケットボール・デベロップメント・リーグ（NBDL）にNBL準会員として参入。NBL昇格を目指します。**

**RENOVAを応援したい 2013-2014 サポーター募集**

**RENOVAを手伝いたい インターンシップ ボランティアスタッフ 募集**

JBL2プレーオフ DVDスペシャル パッケージ 好評販売中！！

お問い合わせは
**株式会社 スポーツフロンティア鹿児島**
〒890-0063 鹿児島市鴨池1丁目60-13 カレッジ鴨池1F
TEL：099-254-6160　FAX：099-297-5469

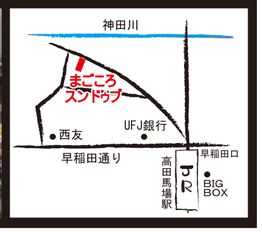
## 日本3号店 OPEN! 2013年5月8日

# まごころスンドゥブ 高田馬場栄通り店

皆様のお力添えにより新撰組グループまごころ日本３号店、高田馬場さかえ通り店をＯＰＥＮすることが出来ました。
駅２分の飲食店が立ち並ぶ激戦区ですが、早稲田店と共に高田馬場に新撰組グループまごころスンドゥブここに有りと、ブランド力を持つ店舗にしていきます。
今後ともご指導ご鞭撻の程お願いします。
店長　羽田知弘

**まごころ スンドゥブ**
**高田馬場栄通り店**
☎.03-5937-4458
東京都新宿区高田馬場3-4-14 協和荘1F中側
●営業時間　昼11時～夜11時　●年中無休

この度５月８日、誠にまごころスンドゥブ３号店のオープンにあたり、たくさんのお花、祝電、ご祝儀を頂きました事に心より感謝申し上げます。また御祝いに駆けつけてお食事をして頂いた方々、心より感謝申し上げます。他にもたくさんの方々からお花のお申し入れ頂きましたがお花を飾るスペースが少ない為、お断りさせて頂きました。皆様方のご好意に心より感謝申し上げます。我々スタッフ一同、お客様を最大限のまごころでおもてなしするという新撰組レストラングループのコンセプトをしっかり追求し精進していきます。今後とも皆様方のお引き立てをよろしくお願い申し上げます。
満留直行




## 村田諒太選手を育てた武元前川さん、その武元先生を育てた
# 和泉哲人さんの手記をご紹介いたします

和泉哲人さんは、阿久根市体育協会副会長として社会体育の振興発展に貢献されたほか、ボクシング協会会長として、競技の振興発展ならびに青少年の健全育成に貢献されました。

和泉哲人さん

### 3人のお客様をお迎えして

1月15日、ご3名の珍客をお迎えいたしました。ご三人にとって深いゆかりのあるこの島に、いつかはお迎えしたいと念じていましたが、意外なほど早く実現できたことは、関係された皆様のご尽力のお陰と感謝申し上げます。特に村田選手にとっては心の中に生き続ける永遠の恩師である、今は亡き武元先生の生まれ育った故郷であり、あなたをロンドンオリンピックの金メダルに導いたその原点がこの小さな島にあったと知れば感慨無量かと思います。同じく本監督にとっても高校時代に上村先生と出会い、ボクシング一筋の人生を歩むようになったその原点がこの沖永良部に在り、あなたの心の中に上村先生は今も生き続けていることだと思います。また大平直樹氏も東洋大学ボクシング部監督としてご苦労なされていますが、原点は私たちと同じくこの島に生まれ育った生粋の「シマンチュ」です。

ご承知のように、このたび日本ボクシング界が待望した村田諒太選手のオリンピック金メダルは48年ぶりに我が国の歴史を書き換えました。村田選手有り難うございます、そしておめでとうございます。

オリンピックは戦争だと例えられます。苦しいトレーニングや厳しい国際的プレッシャーと責任感に耐えながら、ロンドンで村田選手とともに戦った本　博国監督ご苦労様でした。心からそのご苦労に対し敬意と感謝を捧げます。東洋大学ボクシング部の礎石として縁の下から支えてこられた大平直樹氏の長年にわたる辛酸も、この金メダルに繋がるものとしてそのご功績を称え、ご慰労申し上げたいと思います。

本日この席に見えていませんが、本監督の後を受けて「虎の穴」とも呼ばれる、自衛隊体育学校ボクシング部担当教官も、知名町知名出身の沖高卒業生　益山正志氏であることを加えてご紹介いたします。

以上のようにご三人について述べさせていただきましたが、ご三人に共通するボクシングと金メダルの原点を辿ると、声高くこの沖永良部の島であったと断言申し上げてはばかりません。

※大平直樹さんは、知名町大津勘のご出身です。沖永良部高校から東洋大学ボクシング部へと進み、選手活動のさまざまな経験を請われて同大学の監督やOB会長を務め、村田選手を擁する日本最強の東洋大学に育て上げるため、長年にわたり多大なご苦労とご尽力をなされている方です。

※本　博国監督のご両親は隣の与論町のご出身です。高校で上村行和先生と出会い、人生が大きく変わりました。恩師である今は亡き上村先生は元沖高の先生、和泊町役場隣の「弘野家」の娘婿です。

師弟の二人三脚はついに最強といわれた日本チャンピオン、そしてオリンピック選手、オリンピック監督へと。

いつも親子のように、二人が繋がりながら歩いていた昔の姿が目に浮かびます。

先生はいま安らかにこの島で永遠の眠りについておいでです。そのため本監督がたびたび恩師の墓前にお参りしていることは知る人ぞ知ること。

※ロンドン・オリンピック・金メダルの村田諒太選手について、皆さんはすでにテレビ・新聞等の報道で重々ご承知のことなので、村田選手の南京都高校時代の恩師についてお話しさせていただきます。

村田選手が心から慕い、たびたび口にする恩師の名は『武元先生』。故人となった武元前川先生とはいかなる人物なのか。彼は知名町正名出身です。彼も沖高の選手として活躍、日本大学に進みました。卒業後に縁あって南京都高校の教師になりボクシング部を率いて度々全国を制覇しましたが、残念なことに村田選手の金メダルに触れることなく世を去りました。彼の教え子達は恩師の没後に強い粋で団結、様々な大会で『武元軍団』の名で統一したユニフォームを着用することは全国的に有名な風景になりました。

人の縁とは不思議なもの、村田選手の母校南京都高校の学校創始者は、知名町下城出身の本部広哲先生です。その学校のシンボルは先生の故郷沖永良部島のシンボルである白百合の花です。その白百合の花の下で学んだ村田選手を、他人とは思えぬ身近さに感じるのは私だけでしょうか。先程述べましたご三名のボクシングの原点は、この沖永良部だと申し上げた理由を、皆さんお分かりいただけたかと思います。

和泉哲人さんと村田諒太選手

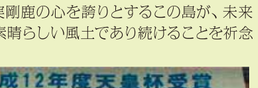
平成25年(2013年) 2月18日（南海日日新聞）

ボクシング 五輪 金 村田さん来島

知名町正名出身 恩師の冥福祈る

沖永良部





**五輪選手に会えた**

知名中1年　叶　清久

先日、私たちの学校に、ロンドンオリンピックのボクシングで金メダルを取った村田諒太選手が来て、講演をしてくださいました。恩師が沖永良部出身だったので、その恩師の墓参りに来られたようです。

私は村田選手に「試合で受けたケガの中で一番大きなものは何ですか。また、印象に残っている相手のパンチは何ですか」と質問しました。「一番大きなケガは、鼻の骨が折れたケガで、印象に残っている相手のパンチは、その鼻の骨を折ったパンチです」と答えてくれました。また、講演の中で村田選手は「人間はいろいろな可能性を持っているので、大いに発揮しなさい」と言っていました。

他にも、村田選手は自分がボクシングを始めたころのことについても話してくださいました。ボクシングを始めたのは、中学校時代だったようです。でも、練習がきつくて、何度もやめようと思いました。（知名町）

正名字の皆さんと記念撮影

鹿工ボクシング部初代監督

## 上村行和という男のボクシングと生きざま

流派は知らないが空手4段、体育祭では俊足で陸上短距離選手を抜き去るほど。元気一杯の国語科担当教師が沖永良部高校に着任した。得意の空手で部活顧問を希望したが先任の顧問を降ろす訳にいかず、外部から創部以来指導に当ったコーチ（和泉）が、鹿児島国体の強化と運営で阿久根市へ転出。その穴埋めにボクシング部顧問として未知の世界に足を踏み入れた。そのことが生涯をボクシングに没頭し命をかけることになるとは知らぬこと。運命の不思議さを感じる。

上村にとってボクシングは未知の分野、部員から習って身構えることから始まり、サンドバックを下げる場所もない野稽古は島特有の赤土の上で行われ、当時は満足な用具などない時代、剣道部の古びた篭手をグローブ代わりにスパーリングが始まった。そしていつも地に這うのは顧問の上村だった。再び立ち向ってくる顧問をもてあます部員、勝ち負けではなく戦う姿勢を体で教えた。口が切れ鼻血をぬぐって迫る顧問が怖かったと当時の部員が語るほどであるから、相当なすさまじさであったろう。

国体を控えてリハーサル大会を阿久根市でたびたび開催、実物のボクシングを見たいとのことで役員として本部席に陣取りしっかり見てもらった。県外選手らに混じり練習に参加してシャドウをこなすなど、さすがに空手の素地があり、そのうえにボクシングを塗り固めたとでも言うべきか、県外選手らの優れた点を貪欲に吸収していたように感じる。

知っているように、空手になじんだ体はそれが抜けにくい。彼の指導はボクシングの一般的指導方法から外れたものであった。決して自ら演技して見せないのである。指導は一般的にコーチが模範を示し、こうやって、こうして、しかじかと、パッパッと鮮やかに示すが、彼は「どうして、なぜだ」と選手自身が考える。求める理想像を選手から引き出すために自ら考えさせる。「本人が工夫して身につける」が原則であった。

彼の求める理想像を生徒自身で実現させようとするものであった。自分が完璧に演じることができないことを知って、哲学的「無知の知」を実践する謙虚さ、それは冷静に事を見る目の持ち主でなければ不可能。

彼は床を踏み鳴らして叱咤激励挙句は激昂して怒鳴り散らす興奮型ではない。その冷静さと秘めた闘魂は空手での修練が基本にあると読んでいた。自分が求める理想に向けて戦う本人に考えさせて近づかせる。自分で自分を磨き上げて完成を目指す選手。これはわが「和泉ファミリー」に共通するボクシングスタイルだ。

生まれも育ちも経歴も全く縁のない私達が、ボクシングを通じてファミリーの心で結ばれたのは、「人を育てる」共通の信念であろう。「人を育てる」心は彼の終焉の地でも遺憾なく発揮された。不治の病に冒され苦しんだ。早い治療と休養が必要と診断されたが彼はじじらがなかった。気がかりな生徒のためこの島に命を懸けると言い切った。そして言葉の通りこの島で人生を終えたのである。　合　掌

ボクシングと関係ない場で見せる彼は愛すべき男である。沖永良部高校時代に結婚する。結婚に反対する両親を説得するため鹿屋市に赴く使いに立った。やっと説き伏せて全責任は私にあり約束しで許しを得た。

意気揚々と帰途についた私は有頂天になりすぎて追突事故を起こしてしまった。散々詫びて事情を話したら、「それは目出度い話だ」。息子が地元高校のボクシング部でその部の後援会長だと。情けをかけていただいて無罪放免、ボクシング様方である。昔の人はおおらかであった。

沖永良部高校から出水工業高校へ転出、同好会から部を興す新規の部にはチャランポランが集まりやすい。それらを取り仕切っていても問題が起きる。そのことで職員会議でもたびたび挟む事が起きるが一歩も引かない徹底した頑固振りに部員が団結して自粛し、一転して模範のボクシング部に変身。

当時の部員達も50歳代になるがいまだに忘れえぬ思い出だと語ってくれる。

その後、和泉に後を継がせ鹿児島工業高校へ。そこでも名うてのガラクタ集団を率いて新規のボクシング部を興す。部員の多さで試合場を圧倒、大応援団で相手選手が威圧されるほどであった。その学校で本博国選手と運命の出会いがあった。南国的心情の両親に育てられたおおらかさと素直さは「ユンヌチュ」の伝統的DNA、これが本選手の持ち味であろう。コセコセやセカセカがなくピンチに強い。同じ系統のDNAを持つ武元には心強い限り。似通ったDNAの武元と連携して村田選手を育ててくれたその功績は、「和泉ファミリー」の一員である上村行和もあの世で大喜びしていることだろう。

「和泉ファミリー」の名付け親は上村行和だ。OBが寄ってたかって騒ぎ、ことあるときは一致団結する。飲んで騒いでも座位置は上下の序列を崩さない古めかしさ。それが気に入ったか飲む席はNO2で大はしゃぎする無邪気な存在。

上村行和は酒好きだった。「飲もうか」といって断られたことがない。阿久根のOBが我が家で飲み会をするといつの間にかその座に混じっている。転勤した鹿児島市と阿久根市は約80km離れている。声をかけると宴の半ばには車を飛ばしてやってくる。そしていつものようにコップ片手に踊り始める陽気さだ。

与論島でも然り、病で医者から硬く禁じられた酒を机の下でそっと隠して注いでやると、お茶だと周りを騙してうまそうに飲み干した。お代わりする度に短くなる命をものともせずに嬉しそうだったあの笑顔は戻らない。いずれ消える命なら思う存分飲ませておくべきであったのか。

ボクシングなど無縁の男が、ボクシングにどっぷりと浸かり、日本の星となり世界の金メダル獲得に絡む大きな力を育て上げたその底力は、欲も己も意に介しない「人を育てる」その一心であったろう。その集大成が本博国ロンドン・オリンピック監督である。残念ながら実子に恵まれなかったが、接する生徒や部員のすべてが実子であった。世間的な評価は無視する男。自己犠牲を苦にしない男。他人の苦楽を共有できる男。哲学者でも宗教家でもない男。なんとも不思議な男であった。

行和よ、もうしばらく待て、お前と一緒に呑めるぞ。先立った先輩後輩共集めて待っていてくれ。テンカウント用のゴングも準備できた。ゴング打ち鳴らし久し振りにお前の皿踊りで手を叩きたいね。

世界地図どころか日本地図の上でさえ、針の先程もない南の島で始まったボクシングが、無名の上村行和という男に乗り移り、それがとてつもないオリンピックの高嶺に本博国という花を咲かせ、さらに金メダルに結びついた。永遠の眠りをこの島で安らかに。久しぶりによかったね本君に会えて。

新撰組まごころ同志会ホームページは、「まごころ同志会」で検索してね！ URL http://www.geocities.jp/magokorodousikai/index.html